

分野	52	水資源	通番 125
施策	522	水の安定供給	
5年後の目標		地下水と府営水の二元水源によって十分な給水量が確保されて、安全で良質な水道水が安定的に供給されている。	

概要					
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目	決算額(円)	担当課
	低廉な水の安定供給事業		会計 款 項 目	—	水道総務課
			公営企業会計		
事業の概要					
地下水と府営水道の二元水源により安心して安全な水を安定供給するとともに、京都府と受水市町が連携し、効率的な水運用により低廉な水道料金での事業運営に努めます。					


令和2年度の取組							
D (取組)	指標	水道水における府営水ブレンド率				単位	%
	現 状 (計画策定時)	年度	28	29	30	1	2
		目標	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0
	47.3(平成26年度)	実績	53.9	51.5	52.4	50.8	51.4
<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症の影響で家庭用の給水量が増加したことから、地下水の取水量を増やすなどし、ブレンド率50%の維持に努めました。 大門橋下流水管橋架替工事の実施により、東・天満塚給水区域への自己水の送水を一時停止する必要があったことから、京都府営水道事務所と協議を行い、府営水の受水量を増やす等し、水道水の安定供給に努めました。 							

施策の「5年後の目標」に対する評価				
令和2年度の達成状況				
C (評価)	評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	対応頁
			—	—
	達成度合	B: 目標をほぼ達成できた(目標の80%~100%程度)	達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 昨年と比べるとブレンド率は若干増えましたが、おおむね目標値の50%に近い値となりました。
	課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地下水と府営水道の二元水源による水道水を安定供給するとともに、効率的な水運用による事業運営に努めます。 ・ 水道水を安定して供給していくため、令和3・4年度は、東第2浄水場の耐震補強工事を実施します。工事期間中は浄水機能が停止するため、市内全域において府営水のみで水道水を供給する必要があります。 		

次年度以降の対応		
A (行動)	方向性	対応策等
	1: 計画通りに進めることが適当	<ul style="list-style-type: none"> ・ 東第2浄水場の耐震補強工事により、浄水機能が停止するため、その期間においては府営水のみでの水道水供給となります。京都府営水道事務所と連携し安定供給に努めるほか、水だよりやホームページ、検針票等で周知を図ります。

分野	52	水資源	通番 126
施策	522	水の安定供給	
5年後の目標		地下水と府営水の二元水源によって十分な給水量が確保されて、安全で良質な水道水が安定的に供給されている。	

概要					
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目	決算額(円)	担当課
	基幹管路の耐震化事業		会計 款 項 目	—	水道施設課
			公営企業会計		
事業の概要					
自然災害や経年劣化による基幹管路の損壊は市民生活への影響も大きく、復旧にも長時間を要します。自然災害等に負けない強靱な水道施設とするため、計画的に更新・耐震化を進めます。					


令和2年度の取組							
D (取組)	指標	上水道基幹管路耐震化率				単位	%
	現 状 (計画策定時)	年度	28	29	30	1	2
	31.6(平成26年度)	目標	32.8	34.9	36.4	40.0	35.9
		実績	32.5	33.0	33.7	34.1	35.4
<ul style="list-style-type: none"> 令和元年度まで水道事業中期経営計画後期計画(平成27～令和元年度)、また令和2年度より上下水道ビジョン(令和2年度～令和11年度)に基づき、耐用年数を経過した基幹管路の耐震化工事を勝竜寺他地内において実施しました。なお、令和元年度の上下水道ビジョン策定に伴い、令和2年度以降の目標値を見直しています。 					<耐震管への布設替状況> 		

施策の「5年後の目標」に対する評価					
令和2年度の達成状況					
C (評価)	評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	対応頁	
	達成度合	B: 目標をほぼ達成できた(目標の80%～100%程度)	達成状況	・耐用年数並びに路線の重要度等を考慮し、関係機関及び地元住民と調整を図りながら工事を実施した結果、目標には及びませんでした。一定の耐震化を進めることはできました。	—
	課題等	・計画に基づく基幹管路の耐震化工事において、円滑に工事を進めるため、関係機関との調整及び地元住民への周知徹底を図ることが必要となります。			

次年度以降の対応	
A (行動)	対応策等
1: 計画通りに進めることが適当	・健全な財政を維持しながら水の安定供給を図るため、耐用年数並びに路線の重要度等から優先順位をつけ計画し、且つ円滑に工事が実施出来るよう関係機関及び地元住民と調整を行った上で、遅滞なく効率的に基幹管路の耐震化を進めます。

分野	52	水資源	通番 127
施策	522	水の安定供給	
5年後の目標		地下水と府営水の二元水源によって十分な給水量が確保されて、安全で良質な水道水が安定的に供給されている。	

概要				
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)	予算科目	決算額(円)	
	P (概要)	鉛製給水管の取替促進事業	会計 款 項 目	—
			公営企業会計	
事業の概要				
蛇口からの水質保全や漏水防止のため、既存の鉛製給水管の取り替えを順次進めます。				

令和2年度の取組								
D (取組)	指標	鉛製給水管残存率				単位	%	
	D (取組)	現 状 (計画策定時)	年度	28	29	30	1	2
		D (取組)	14.3(平成26年度)	目標	12.2	10.0	8.0	6.0
	実績		12.4	11.7	10.2	9.0	7.5	
<ul style="list-style-type: none"> 令和元年度まで水道事業中期経営計画後期計画（平成27～令和元年度）、また令和2年度から上下水道ビジョン（令和2年度～令和11年度）に基づき、市内一円における給水管取替工事、管路更新工事及び道路整備工事等を実施し、鉛製給水管の取替を進めました。工事を実施する上で、事前周知や対象者との調整等を行いました。なお、令和元年度の上下水道ビジョン策定に伴い、令和2年度以降の目標値を見直しています。 						<鉛製給水管の取替状況> 		

施策の「5年後の目標」に対する評価			
令和2年度の達成状況			
C (評価)	評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド
	C (評価)	—	—
C (評価)	達成度合	A: 目標を達成又は上回って達成できた(目標の100%以上)	達成状況
C (評価)	課題等	<ul style="list-style-type: none"> 鉛製給水管の取替について、給水管取替工事及び漏水に伴う取替、また管路更新工事及び道路整備工事に合わせて実施し、まとまった箇所がなくなってきている中でも効率の良い集合住宅等を選定し、目標を達成しました。 事業進捗に伴い、まとまった地区での更新がほぼ完了し、近年では取替箇所が点在していることから、選定が難しくなっています。取替箇所が点在している中でも、確実に取替を進めていくため、効率よく実施できる箇所の選定を図る必要があります。 	

次年度以降の対応	
方向性	対応策等
A (行動)	1: 計画通りに進めることが適当 <ul style="list-style-type: none"> 取替対象が市内一円に点在しているが、管路更新等と調整を図りながら、実施箇所の選定をします。 引き続き、対象者への周知を図り、対象者並びに近隣住民の理解と協力を得ながら取替を進めます。

分野	52	水資源	通番 128
施策	522	水の安定供給	
5年後の目標		地下水と府営水の二元水源によって十分な給水量が確保されて、安全で良質な水道水が安定的に供給されている。	

概要					
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)	予算科目	決算額(円)	担当課	
	多様な形態の広域化の検討事業	会計	款	—	水道総務課
		項目			
		公営企業会計			
事業の概要					
水需要の減少により水道料金収入は減少する一方、老朽施設の更新や耐震化など事業費用は増加する見込みとなっています。市水道事業単独での効率化にも限界があり、水道事業を継続して安定経営するため、水道施設の共同使用や経営の統合など広域化を検討します。					

令和2年度の取組							
D (取組)	指標	新たに策定する上下水道ビジョン(令和2~11年)に多様な広域化の方向性を反映				単位	—
	現 状 (計画策定時)	年度	28	29	30	1	2
	乙訓上水道事業連絡協議会で多様な広域化について検討(平成26年度)	目標	多様な広域化について検討	多様な広域化について検討	多様な広域化について検討	新たに策定する上下水道ビジョンに多様な広域化の方向性を反映	—
実績		多様な広域化について検討	多様な広域化について検討	多様な広域化について検討	新たに策定する上下水道ビジョンに多様な広域化の方向性を反映	他の水道事業体との広域連携の検討	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 京都府内の市町村水道事業連絡会議(南部)に参加しました。 ・ 隣接する市町との連携との観点から、京都市と協議を行いました。 							

施策の「5年後の目標」に対する評価				
令2年度の達成状況				
C (評価)	評価指標	評価指標の傾向・トレンド		対応頁
		—	—	
達成度合	A: 目標を達成又は上回って達成できた(目標の100%以上)	達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 京都府が水道広域化のシミュレーションとして行った「京都府営水道アセットマネジメント検討業務委託」の結果について、その概要を京都府と共有しました。 ・ 令和3年度に京都市の浄水場にて、本市職員の水質管理に関する知識と技能向上を目的に、研修を行うこととなりました。 	
課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・ これから議論が始まる予定とされていますが、各市町の経営や施設の状況、料金体系等が異なることから、広域化の議論を進めていく中で、様々な課題が出てくることが予想されます。そのような中で、しっかりと本市の方向性を主張していきます。 			

次年度以降の対応	
A (行動)	対応策等
1: 計画通りに進めることが適当	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「京都府営水道アセットマネジメント検討業務」の結果等を踏まえ、京都府や他の市町と広域化の議論が行われる見込みです。議論に参加し、引き続き広域化の検討を進めます。